



上場会社名 株式会社モブキャストホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 3664 URL <https://mobcast.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藪 考樹  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO (氏名) 佐武 利治 (TEL) 03-5414-6830  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第2四半期の連結業績 (2020年1月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第2四半期	3,806	27.4	△328	—	△408	—	594	—
2019年12月期第2四半期	2,987	△17.6	△644	—	△684	—	△647	—

(注) 包括利益 2020年12月期第2四半期 594百万円( —%) 2019年12月期第2四半期 △650百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第2四半期	23.81	23.72
2019年12月期第2四半期	△33.72	—

(注) 2019年12月期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第2四半期	5,243	1,814	34.45
2019年12月期	6,941	685	9.78

(参考) 自己資本 2020年12月期第2四半期 1,806百万円 2019年12月期 678百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年12月期	—	0.00			
2020年12月期(予想)			—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想 (2020年1月1日～2020年12月31日)

2020年12月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大により当社グループ(当社および当社の連結子会社)をとりまく外部環境が期初と異なる状況となっております。現時点で同感染症による業績への影響を合理的に見積もることが難しいことから業績予想を未定とし、今後業績予想の算出が可能となったタイミングで速やかに開示致します。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 除外 1社 (社名) 株式会社トムス

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2020年12月期 2 Q	27,669,308株	2019年12月期	24,008,308株
2020年12月期 2 Q	一株	2019年12月期	一株
2020年12月期 2 Q	24,946,764株	2019年12月期 2 Q	19,184,384株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信 (添付資料) 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算説明資料は、TDnetで同日開示する予定になります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	10
(セグメント情報等)	11
(企業結合等関係)	13
(追加情報)	14
(重要な後発事象)	14
3. その他	15
継続企業の前提に関する重要事象等	15

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間において当社は、前連結会計年度に引き続き、各社ごとにおける戦略に沿って、売上、利益の拡大を図るとともに、エンターテインメント分野における新たな事業領域への拡大を目指し新規の投資案件を継続して探しております。

なお、トムスの成長戦略を追求するにあたり、当社グループが掲げる「グローバルニッチ戦略」における当社グループとのシナジー効果創出には時間を要する可能性が高いことが判明したことから、当社の資本効率を高めることとなるとの戦略的判断に至り、保有するトムス株式の80%を譲渡いたしました。

#### モバイルゲーム事業

モバイルゲーム事業につきましては、2019年11月に当社の子会社であるモブキャストゲームス（以下、「モブキャストゲームス」）が株式会社ゲームゲート（以下、「ゲームゲート」）の全株式を取得し、完全子会社（当社の孫会社）といたしました。その後、2020年1月1日を効力発生日としてモブキャストゲームスを存続会社としたゲームゲートを吸収合併し、1つの会社として旧モブキャストゲームス、旧ゲームゲートの国内外のネットワーク等を生かし、ゲームゲートの得意分野であるアニメ等のニッチIP分野でのゲームを中心としたデジタルコンテンツのプロデュースを戦略の軸として進めております。その一環として、旧モブキャストゲームスで配信していたスポーツタイトルを2020年3月31日付で株式会社オルトプラスへ譲渡いたしました。

当第2四半期連結会計期間においては、製作委員会に参画し準備を進めていた「エヴァンゲリオンバトルフィールド」が2020年4月2日に配信を開始、また、配信中の「転生したらスライムだった件～魔国連邦創世記（ロードオブテンペスト）～」につきましては既存のプラットフォームに加えDMM GAMESにて配信する等売上増加に向けた取り組みを行い、売上高は1,537,567千円（前年同四半期の売上高は1,811,260千円）となりました。また、コストについては、販管費の見直しをさらに進めました。しかしながら、「エヴァンゲリオンバトルフィールド」の出資に関わる償却を開始したこともあり、営業損失は8,698千円（前年同四半期は営業損失229,887千円）となりました。

#### モータースポーツ事業

モータースポーツ事業につきましては、広告収益および事業収益を目的とした年間スポンサー契約の獲得、およびレース参戦車両の技術開発により自動車用品への技術転用や商品開発に必要なデータやノウハウの蓄積のため、国内の主要な自動車レースカテゴリーに参戦しております。

売上につきましては、レース事業はコロナウイルス感染症の影響によりレース開催が下期以降の開催になるものの、スポンサー売上は計画どおりに推移しております。また、自動車用品事業については、トムスブランド製品の品質をアピールし、商品開発車種の増加と海外販売及びネット販売等による販路拡大の基盤づくりを行う一方で、当第2四半期連結累計期間においては、医療従事者への支援を目的としたチャリティーガレージセールおよび除菌コーティングスプレアの販売といった、コロナ下の市場動向をふまえた活動も行ってまいりました。

その結果、売上高は1,083,764千円（前年同四半期は売上高1,123,581千円）、営業損失は42,697千円（前年同四半期は営業損失174,276千円）となりました。また、新型コロナウイルス感染症による休業に関わるコストを特別損失として計上（助成金支給見込額を控除）しております。

なお、モータースポーツ事業につきましては、2020年6月25日付「連結子会社の異動（株式譲渡）及び特別利益発生のお知らせ」にて開示しているとおり、トムスの株式の80%を譲渡したことから同社を2020年12月期第2半期連結会計期間末より連結の範囲から除外するとともに、持分法適用の範囲に含めております。

#### キッチン雑貨事業

キッチン雑貨事業を営む株式会社ゆとりの空間は、雑誌やテレビなどメディアでなじみ深い料理研究家の栗原はるみ氏が暮らしを楽しむアイデアやライフスタイルを提案する生活雑貨ショップ「sharewith Kurihara harumi」とレストラン&カフェ「ゆとりの空間」をプロデュースし、オリジナルの食器やキッチン雑貨、調味料、インテリア小物、エプロン、ウェアなどを全国の百貨店、アウトレットなどで事業展開しています。

当第2四半期連結累計期間において、全国の百貨店などに outlet している小売店舗の売上については、新型コロナウイルス感染症による百貨店の営業自粛・休業により2020年4月、5月は減収となりましたが、5月25日の緊急事態宣言の解除に伴い、客足、売上ともに緊急事態宣言前のレベルに近い水準まで戻りつつあります。またモブキャ

ストグループ参画後より強化しているEコマース売上は、巣ごもり需要も加わりさらに増加、加えて法人営業にて販路拡大が順調に進んだことによりカタログ通販分野では売上が増加しました。しかしながら、百貨店売上の減収分までをカバーするまでには至らなかったものの、Eコマース売上増加と経費削減により、売上高は1,181,193千円、営業損失は7,976千円となりました。また、新型コロナウイルス感染症による休業に関わるコストを特別損失として計上(助成金支給見込額を控除)しております。

なお、キッチン雑貨事業につきましては、2019年12月期第4四半期連結会計期間から連結対象としたため、前年同四半期との比較につきましては記載を割愛しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの売上高は、3,806,968千円(前年同四半期は売上高2,987,239千円)、また、営業損失につきましては、328,186千円(前年同四半期は営業損失644,516千円)となりました。また、営業外費用として「支払利息」41,098千円、「持分法による投資損失」17,874千円、「支払手数料」15,567千円等を計上したことにより、経常損失は408,600千円(前年同四半期は経常損失684,810千円)となりました。さらに、特別利益として「子会社株式譲渡益」1,042,975千円、特別損失として「店舗休業損失」22,938千円を計上した結果、税金等調整前四半期純利益は676,294千円(前年同四半期は税金等調整前四半期純損失683,342千円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は594,080千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失647,022千円)となりました。

## (2) 連結財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より1,698,158千円減少し、5,243,549千円となりました。これは主に、現金及び預金が261,410千円、受取手形及び売掛金が286,103千円、商品及び製品が262,889千円、土地が511,000千円減少したこと等によるものであります。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末より2,827,568千円減少し、3,428,567千円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が697,933千円、短期借入金が311,332千円、1年内返済予定の長期借入金が275,725千円、長期借入金が1,198,612千円減少したこと等によるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末より1,129,409千円増加し、1,814,981千円となりました。これは主に、資本金が2,236,552千円、資本剰余金が1,207,295千円減少し、利益剰余金が4,578,736千円増加したことによるものであります。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ284,210千円減少し、642,688千円となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動により支出した資金は、570,634千円(前年同四半期は621,930千円の支出)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益676,294千円、減価償却費127,009千円、前受金の増加425,074千円による資金の増加、仕入債務の減少431,053千円、未払金及び未払費用の減少123,401千円により資金が減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動により獲得した資金は、180,159千円(前年同四半期は154,719千円の支出)となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入249,272千円、事業譲渡による収入54,757千円による資金が増加したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動により獲得した資金は、105,607千円(前年同四半期は152,936千円の獲得)となりました。これは主に、長期借入れによる収入220,000千円、株式の発行による収入570,546千円による資金の増加、短期借入金の減少311,332千円、長期借入金の返済による支出300,397千円により資金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループはこれまで培ってきた「モバイルインターネット領域におけるサービス開発および運営ノウハウの提供、ブランド資源の価値最大化のプロデュース及び経営支援を行うことで、グローバルでの事業成長を実現し、日本のエンターテインメント業界を革新させ、さらなる発展に貢献する」ことを重要な戦略と位置付けています。

2020年12月期においては、モバイルゲーム事業においては前連結会計年度に株式を取得し吸収合併したゲームゲートのビジネスモデルを中心に、ニッチIPプロデュースをグローバルに展開、キッチン雑貨事業においては、既存店舗の見直し及びECによる販売強化、新たな形態での出店を想定しておりました。しかしながら、6月に株式会社トムスの株式の80%を譲渡したことにより、同社が第3四半期連結会計期間から連結の範囲から除外され持分法適用関連会社となること、また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、主にキッチン雑貨事業における店舗の休業等による業績への影響があることから、業績予想を未定と変更致しました。新型コロナウイルス感染症につきましては、緊急事態宣言が収束し、百貨店等の営業が再開したものの、新規感染者数が増加傾向にあるなど、引き続き経済全体の先行きの見通しが難しい状況にあります。そのため、当社グループにおける業績への影響額を現時点において合理的に見積ることが困難であるため、連結業績予想につきましては未定とさせていただきます。今後、業績予想の算定が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	988,246	726,836
受取手形及び売掛金	1,161,145	875,042
未収入金	33,223	618,790
商品及び製品	506,530	243,640
仕掛品	99,286	—
原材料及び貯蔵品	50,560	533
その他	345,667	228,683
貸倒引当金	△11	△18
流動資産合計	3,184,650	2,693,508
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	726,681	224,044
減価償却累計額	△373,744	△112,938
建物及び構築物(純額)	352,936	111,105
機械装置及び運搬具	701,962	—
減価償却累計額	△511,700	—
機械装置及び運搬具(純額)	190,262	—
工具、器具及び備品	413,253	111,861
減価償却累計額	△356,956	△82,751
工具、器具及び備品(純額)	56,297	29,110
土地	1,311,000	800,000
建設仮勘定	25,312	—
その他	67,284	6,930
減価償却累計額	△53,428	△1,242
その他(純額)	13,855	5,687
有形固定資産合計	1,949,664	945,903
無形固定資産		
ソフトウェア仮勘定	94,811	94,811
のれん	855,060	739,111
その他	9,584	5,017
無形固定資産合計	959,456	838,940
投資その他の資産		
投資有価証券	304,844	262,981
その他	549,392	508,516
貸倒引当金	△6,300	△6,300
投資その他の資産合計	847,937	765,197
固定資産合計	3,757,058	2,550,040
資産合計	6,941,708	5,243,549

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	894,938	197,005
短期借入金	883,000	571,668
1年内償還予定の社債	110,400	99,400
1年内返済予定の長期借入金	533,794	258,069
未払金	987,920	845,306
未払法人税等	15,475	65,519
賞与引当金	2,104	13,998
その他	580,960	502,183
流動負債合計	4,008,593	2,553,151
固定負債		
社債	162,000	114,800
長期借入金	1,873,018	674,406
繰延税金負債	107,537	54,374
退職給付に係る負債	77,663	26,255
その他	27,323	5,580
固定負債合計	2,247,543	875,416
負債合計	6,256,136	3,428,567
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,023,436	786,883
資本剰余金	1,646,771	439,476
利益剰余金	△3,998,887	579,848
株主資本合計	671,320	1,806,208
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	9
為替換算調整勘定	7,534	—
その他の包括利益累計額合計	7,534	9
新株予約権	2,885	4,943
非支配株主持分	3,832	3,820
純資産合計	685,572	1,814,981
負債純資産合計	6,941,708	5,243,549



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
売上高	2,987,239	3,806,968
売上原価	2,234,575	2,340,411
売上総利益	752,663	1,466,556
販売費及び一般管理費	1,397,180	1,794,743
営業損失(△)	△644,516	△328,186
営業外収益		
受取利息	1,014	153
保険金収入	1,140	—
受取賃貸料	—	3,600
その他	3,301	4,998
営業外収益合計	5,456	8,752
営業外費用		
支払利息	10,355	41,098
為替差損	20,400	818
株式交付費	422	1,225
支払手数料	—	15,567
持分法による投資損失	13,435	17,874
その他	1,136	12,583
営業外費用合計	45,750	89,166
経常損失(△)	△684,810	△408,600
特別利益		
子会社株式譲渡益	—	1,042,975
事業譲渡益	—	59,000
その他	1,468	9,496
特別利益合計	1,468	1,111,472
特別損失		
固定資産除却損	0	3,545
店舗休業損失	—	22,938
その他	—	93
特別損失合計	0	26,577
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△683,342	676,294
法人税、住民税及び事業税	27,820	82,225
法人税等調整額	△63,163	—
法人税等合計	△35,342	82,225
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△647,999	594,068
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△977	△12
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△647,022	594,080

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△647,999	594,068
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△15	9
持分法適用会社に対する持分相当額	△2,239	—
その他の包括利益合計	△2,254	9
四半期包括利益	△650,253	594,078
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△649,276	594,090
非支配株主に係る四半期包括利益	△977	△12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

株主資本の著しい変動

当社は、2020年3月24日開催の定時株主総会において、欠損の填補を目的とする無償減資について決議し、当該決議について、2020年4月30日を効力発生日として資本金2,523,436千円、資本準備金1,127,137千円を減少し、この減少額全額をその他資本剰余金に振り替えました。

また、資本金及び資本準備金の額の減少の効力発生を条件に、その他資本剰余金4,017,615千円を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補いたしました。

また、2020年3月25日に発行いたしました第32回新株予約権の権利行使に伴う新株式発行により、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ286,883千円増加しました。

これらにより、当第2四半期連結会計期間末において、資本金786,883千円、資本剰余金439,476千円、利益剰余金579,848千円となっております。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲及び持分法適用の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間において、持分法適用関連会社であったEnhance Experience Inc.は、重要性が低下したため、持分法の適用範囲から除外しております。

また、当第2四半期連結会計期間において、当社が保有する株式会社トムス株式の80%を売却いたしました。これに伴い、株式会社トムスを連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に含めております。なお、四半期連結財務諸表作成にあたり、株式会社トムス株式のみなし売却日を2020年6月30日として、のみなし売却日までの損益計算書を連結しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	モバイルゲ ーム事業	モータース ポーツ事業	キッチン雑 貨事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,811,260	1,123,581	—	2,934,842	52,396	2,987,239	—	2,987,239
セグメント間の 内部売上高又は振 替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,811,260	1,123,581	—	2,934,842	52,396	2,987,239	—	2,987,239
セグメント損失 (△)	△229,887	△174,276	—	△404,164	△23,977	△428,142	△216,374	△644,516

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ等の取得及び再生事業等を含んでおります。
2. セグメント損失の調整額△216,374千円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	モバイルゲ ーム事業	モータース ポーツ事業	キッチン雑 貨事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,537,567	1,083,764	1,181,063	3,802,394	4,573	3,806,968	—	3,806,968
セグメント間の 内部売上高又は振 替高	—	—	130	130	—	130	△130	—
計	1,537,567	1,083,764	1,181,193	3,802,525	4,573	3,807,098	△130	3,806,968
セグメント利益又 はセグメント損失 (△)	△8,698	△42,697	△7,976	△59,372	36	△59,335	△268,851	△328,186

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ等の取得及び再生事業等を含んでおります。
2. セグメント損失の調整額△268,851千円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社トムスの株式80%を売却し、連結の範囲から除外し、持分法適用関連会社としたことにより、「モータースポーツ事業」のセグメント資産は2,342,058千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「モータースポーツ事業」において、当社の連結子会社である株式会社トムスの株式80%を売却し、連結の範囲から除外したことにより、のれんの金額に重要な変動が生じております。

当該事象によるのれんの減少額は、71,039千円であります。

(企業結合等関係)

事業分離

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、2020年6月26日に当社の連結子会社である株式会社トムスの発行済株式の80%を株式会社T2に譲渡したことに伴い、連結の範囲から除外し、持分法適用関連会社としております。

1. 事業分離の概要

(1) 分離先の名称

株式会社T2

(2) 分離した事業の内容

名 称：（連結の範囲から除外した連結子会社）  
株式会社トムス

事業の内容： 自動車用部品、用品の企画、開発、販売、トヨタ車をベースとしたコンプリートカーの企画、開発、レーシングチームの運営

(3) 事業分離を行った理由

当社は、2018年2月にトムスの株式を取得いたしました。トムスは、これまで国内主要レースカテゴリに属するSUPER GTへの参戦、複数回の上位入賞実績によるスポンサー売上を計上するレース事業、長年のレースでの上位入賞する経験により培った技術を生かした自動車関連パーツの受注生産を行うデザイン事業及びレースにおけるトムスの知名度と技術を生かした自動車パーツの販売を行う自動車用品販売事業を展開してまいりました。株式取得以降、事業においてはSUPRA、CENTURYといったトヨタ自動車株式会社（以下、「トヨタ」）を代表する車種のコンプリートカーの発売、トムスオイルの拡販体制、トムスファンに向けたグッズの拡充と公認ファンクラブの発足等、事業成長のための基盤構築、補強を実現。加えて管理体制においては、組織改革、各種規程の整備をはじめIPOを実現するための体制の構築など、今後のトムスの成長に必要な支援を行ってまいりました。一方で、トヨタが推進する富士スピードウェイ併設の（仮称）モータースポーツビレッジへの参画をはじめとする大型投資、トヨタのモータースポーツ事業とのシナジーによる事業拡大が、今後のトムスの成長とそれに伴うIPOへの近道であると判断いたしました。

このトムスの成長戦略を追求するにあたり、当社グループが掲げる「グローバルニッチ戦略」において、当社グループとのシナジーを生み出すためには時間を要する可能性が高いと判明したことから、現段階で「トヨタとの関係性を深めるための経営権移動」を伴うトムス株式の譲渡がトムス自身の次の成長に有益であることに加え、当社の資本効率を高めることとなるとの戦略的判断に至り、保有するトムス株式の80%を譲渡することいたしました。

(4) 事業分離日

2020年6月26日（みなし売却日2020年6月30日）

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

株式譲渡益 1,042,975千円

## (2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産	1,238,041千円
固定資産	1,104,017
資産合計	2,342,058
流動負債	1,266,319
固定負債	1,318,642
負債合計	2,584,962

## (3) 会計処理

当該譲渡株式の連結上の帳簿価額と売却額の差額を「子会社株式譲渡益」として特別利益に計上しております。

## 3. 分離した事業が含まれていた報告セグメント

モータースポーツ事業

## 4. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

売上高	1,083,764千円
営業損失(△)	42,697千円

## (追加情報)

## (新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

当社グループにおいては、2020年4月7日に政府から発令された緊急事態宣言を受け、店舗・拠点の営業を臨時休業（一部店舗は部分休業及び営業時間の短縮）していましたが、5月中旬以降、緊急事態宣言が解除された地域から段階的に営業を再開いたしました。当該臨時休業の影響により、当第2四半期連結累計期間においては、売上高の大幅な減少等の影響が生じております。

新型コロナウイルス感染症の影響については今後の広がり方や収束時期等を正確に予測することは困難な状況にありますが、当第2四半期の連結財務諸表作成時において外部情報を含んだ入手可能な情報等を踏まえ、当該影響が2020年12月末頃まで続くなどの仮定を置き、当第2四半期連結会計期間の固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っております。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。



### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

##### 継続企業の前提に関する重要事象等を解消するための対応策等

当社グループは2015年12月期より、5期連続して営業損失を計上し、当第2四半期連結累計期間におきましては、特別利益として子会社株式譲渡益を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益となったものの、営業損失、経常損失となっております。その要因は、グループ全体としてのコストは、ほぼ変わっていない状況ながら、モータースポーツ事業が営業損失を計上したことに加え、株式会社ゆとりの空間が営むキッチン雑貨事業において新型コロナウイルス感染症の影響等により営業損失を計上したことから、営業損失を計上いたしました。

このことから、当社グループは、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると認識しております。しかしながら、その対策として、モバイルゲーム事業につきましては、2020年1月に当社の連結子会社である株式会社モブキャストゲームスが株式会社ゲームゲート（以下、「ゲームゲート」）を吸収合併して、ゲームゲートが得意とするニッチIPのコンテンツプロデュースに戦略を寄せ、ローリスクミドルリターンモデルへと転換し、モバイルゲーム事業の中で今後の戦略より外れていたスポーツタイトルの一部を子会社として設立した株式会社モブキャストプラスへ承継し、その全株式を2020年3月31日をもって株式会社オルトプラスへ売却したことに加え、人件費、その他費用を抑制し、コストの見直しをさらに進めております。また、キッチン雑貨事業におきましても、一時的な新型コロナウイルス感染症による収入減少はあったものの、店舗営業再開後は一定率での業績回復が見込まれ、EC事業においては売上が急増しており、他の出版事業等においても影響なく推移しております。さらに、モータースポーツ事業を営む株式会社トムスの更なる成長と、当社の資本効率を高めることを目的として、当社が保有する同社株式の80%を譲渡したことに加え、2020年3月25日に株式会社SBI証券に対して発行した新株予約権の行使が同月より開始されていることから、財務基盤は一定の安定化が図られております。

これらの結果、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。